

書名	数学ガール		出版年 (西暦)	2007
著者・編者	結城浩	出版社	ソフトバンククリエイティブ	
学部・研究科	工学部・機械工学科		学年	2年
この本は、タイトルの通り数学をする少女たちの物語である。主な登場人物には、黒髪の才媛ミルカさん、後輩の元気少女テトラちゃん、主人公の「僕」がいる。いや、数学が主人公といったほうが適切かもしれない。数学が彼女たちの中心であり、物語の根底にあるのだ。				
もちろん扱われる単元は様々。フィボナッチ数列からテイラー展開までバラエティにとんでいる。数学が苦手だ、という理由だけで読むのを躊躇するのはできればやめて欲しい。				
一つのテーマを取り上げるとき、この本はある特徴を持つ。予備知識と基礎を「僕」がテトラちゃんへ教え、深く掘り下げた証明と解答をミルカさんが二人へ講義するのだ。この流れが、読者である我々に数学への興味関心を刺激する。数学の不思議さと楽しさを教えてくれる。ベクトルをヴェクタと発音したくなること請け合いだ。				
そしてこの本の最も面白いところは、数学的表現と日常風景や恋模様の融合だろう。漸近する二人、一つのを二つの視点で見ることで実は一つのものであることに気付く。物語と数学が深く、細やかにつながっているのだ。				
この本は、どんな人にでも数学の楽しさを教えてくる。数学が嫌いな人も好きな人も、構造を見抜く心の目を携えて、 ω のワルツを踊り、単位円を描いて欲しい。				